



# 自然観察

No.115  
2015.9

## 目次

- ・東川で指導員養成講習会開催 ..... 2
- ・北海道自然観察協議会創立30周年記念公開シンポジウム開催のご案内 ..... 3
- ・夏空の下、子供たちの歓声が森に響く!! ..... 4
- ・会費の早期納入についてのお願い ..... 5
- ・連載 嫌われ者～カメムシの世界2 海辺にすむ個性的なカメムシたち ..... 6
- ・フィールドニュース ..... 8
- ・連載(2) 面白く楽しい自然ガイド ウトナイ湖 古砂丘に行く ..... 8
- ・ウォッチングレポート ..... 10
- ・参加者の声 ..... 14
- ・ウォッチングプラン ..... 15
- ・連絡先 ..... 16



「給餌に忙しいカワセミの親子」野幌森林公園 8月

## 東川で指導員養成講習会開催～第 503 回自然観察指導員講習会～

6月13、14の両日、「大雪山麓で学ぼう 自然の伝え方」をテーマに、東川町キトウシ森林公園で第503回自然観察指導員講習会（養成講習、日本自然保護協会(NACS-J)と北海道自然観察協議会の共催）が開かれました。チラシ2,000枚を配るなど、広報に努めたかいたがあり、定員40人を超える47の方が受講されました。

開催は前回の恵庭に続き2年ぶり。旭川地方では1989年の当麻以来です。講師は吉田正人さん、秋山幸也さん、日本自然保護協会事務局の福田博一さん。道内からは横山会長をはじめ、札幌、帯広の理事や地元・旭川の会員ら15人が支援スタッフとして参加しました。

フィールドとなったキトウシ森林公園は、大雪山から続く丘が上川盆地に突き出した形で、天然林がよく残り、宿舎となったキトウシ高原ホテル、講習会場の東川町森林研修センターから歩いて1分で森に入ることができます。



講師からは「多様な活動ができる、国内でも屈指の恵まれた環境」と評価をいただきました。

講習は1泊2日の日程ですので、かなりハードです。初日は森をスケッチしながらだんだん近づき、見えるもの、わかることなど、視点の変化に気づきます。座学では、観察会の心得や意義を学びました。

恒例の懇親会は60人を超える全員がひと言自己紹介を行い、2次会、3次会と部屋を替えて深夜まで情報交換と交流を深めました。この場での仲間作りが、今後の活動の基礎になると思います。運悪く3次会会場となった部屋の方にはご迷惑をかけました。

2日目は早朝から唯一の地元プログラムを行い、鳥（柳田和美）、草本（横山武彦）、樹木（山本牧）の3組に分かれ、キトウシの自然の特徴や読み取り方を伝えました。

最後は受講者一人ずつが観察会講師となる



実習です。テーマの設定と場所の選択、話の組み立て、時間配分と流れなどを考え、企画案を練るため、昼食もそこそこに森のあちこちに散らばります。

数人ずつの班に分かれ、進行役は地元会員です。まず、「自然観察指導員」の黄緑の腕章を腕に巻いてもらい、その瞬間からスタート。あいさつを交わし、目指すフィールドへ歩き出す

ところからプログラムは始まっています。岩の色、葉っぱの形、土のにおい、いろいろな切り口の解



説がありました。試験ではないけれど、出番を終えるとみんなほっとした笑顔になります。それだけ緊張し、集中していたのでしょう。

登録手続きでは、受講者 47 人中 31 人の方が北海道自然観察協議会に入会していただきました。新しい仲間を迎え、観察会活動も一段と進むでしょう。また、道内各地の横のつながりができたことも貴重な成果です。旭川地区でもメンバーが一気に増え、講習受け入れの苦勞が

報われました。

最後になりましたが、丁寧な解説をしていた講師の先生方、膨大な準備作業をこなし自然保護協会事務局の福田さん、会場を提供し何かと便宜を図っていただいた東川町、町振興公社、そして運営に尽力された道内理事・会員と受講生の皆さまに厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。(山本 牧)



## 北海道自然観察協議会創立 30 周年記念 公開シンポジウム開催のご案内

1985 年(昭和 60 年)に道民に自然に対する興味と関心を高めるため自然観察会の開催活動等を行ってきた北海道自然観察協議会は、今年で創立 30 周年を迎えます。

これを記念して標記シンポジウムを開催しますので、会員の皆様方の積極的なご参加をお待ちしております。

♥日時 2015 年 11 月 7 日(土)13:00~16:00

♥場所 札幌市男女共同参画センター3階ホール  
(札幌市北区北 8 条西 3 丁目 札幌エルプラザ内 )

♥記念講演 『天売島の海鳥が地球を教えてくれた』  
寺沢 孝毅 氏(自然写真家)

♥パネルディスカッション

テーマ『自然観察から何が始まる?』

指導員の活動報告 荒井美和子さん(札幌市 平岡どんぐりの森代表)

安藤 忍さん(伊達市 洞爺湖有珠火山マイスター)

原田 幸枝さん(旭川市 人と野生生物との関わりを考える会)

コーディネーター 山本 牧(北海道自然観察協議会理事)

♥資料代 500 円(会員は無料)

♥主催 北海道自然観察協議会

# 夏空の下、子供たちの歓声が森に響く!!

## ～第26回「滝野の自然に親しむ集い」～

セミ時雨が注ぐ夏空の下、セミを、小魚を追う子供たちの歓声が森に川に響いた。

今年で26回目を迎えた「滝野の自然に親しむ集い」の一コマだ。

前日の曇雨天がウソのように消え去り、朝から夏空が戻ってきた中で、リピータ組が3組、新規参加が1組の計4組の参加者を迎えて集いが始まった。

「父と男児」のペアが3組、「母と男児」のペアが1組という組み合わせであったが、いずれのペアも子供は1人参加で4家族8人という参加状況だった。

これに横山会長、池田事務局長ら計7名の指



導員が付いたので、参加者たちに対してほぼマンツーマンの指導という手厚いもの(?)となった。

横山会長からの「他に無い盛りだくさんの内容の集いなので、楽しんでもらいたい」という挨拶のあと、自己紹介を兼ねた「はじめましてゲーム」を開始。名前、住まいをはじめ生き物を育てた経験、森であったことのある動物名などを相手から聞き出して互いに紹介し合った。

続いて滝野自然学園事務局職員からの施設等の利用についての注意を伝えるオリエンテーションが行われた後、午後からは子供たちに絶大な人気がある「あしりべつ川」での「せせらぎウオッチング」に移った。

冷たい水にも関わらず、子供たちは魚、水生昆虫などの水生生物をタモ網で掬い取ろうと夢中で奮闘!しかし今年は、昨年と異なり意外と魚影の姿が少ないため、獲れた魚は小魚ばかり。しかし、ヤゴとかカゲロウの幼虫などは例年並みに捕獲された。最後に全員で網を川一杯に横断的に並べて、上流から追込み人が川の中をかき混ぜて魚を網に追い込む'追い込み漁'に期待をかけたが、「泰山鳴動ネズミ1匹」ならぬ小魚1~2匹ほどの獲物しか取れなかった。

それでも子供たちは、横山会長が水槽に入れた水生生物についての解説を始めると、水槽を覗き込んだり、手に取って観察したりするなど熱心に観察をしていた。

次のスケジュールは、「夕食作り」で、薪割り、暖炉づくりと火起し、飯盒での炊飯、カレーライスづくりなどの役割を子供たちはもちろん大人も含めた全員が分担して当たった。

食事は、一つの大きなテーブルの下に、全員が丸太のイスに腰掛けて大家族のようになって美味しくかつ楽しく頂いた。

夜のとばりも落ちてきた6時半過ぎからキャンプファイヤーに移った。学園職員がインストラクターになって、エンジェル役の4人の子供たちによる松明による点火で始まり、全員ファイヤーを囲んで輪になってのゲーム、踊り等を楽しんだ。

この後、本協議会ならではのスケジュールとして夜の森の散歩・観察を行う「ナイトハイク」と「星空ウオッチング」に移った。ナイトハイクは、夜の森に入り、その暗さを体験するとともに、五感を働かせて夜の森を感じてもらおうというもの。真っ暗な森の小径を前の人を見失わないように、恐る恐る歩く子供たちの姿が目立った。星空ウオッチングは、あいにく曇り空となったため、中止し、部屋での星観察に関するDVDの鑑賞となった。第1日目の最後のスケジュールとなったのが懇親会で、大人はもちろん子供も参加して行われた。子供たちは眠い目をこすりながらも今日一日の楽しい催し物を語り合っていた。

2日目の翌朝は、6時半からのラジオ体操から始まって、バードウオッチング等を兼ねた朝の散歩が行われた。

この日も朝から好天のため、セミが一斉に鳴きはじめていたため、子供たちは木に止まっているセミを網で必死になって採っていた。またこの散歩中に、幼少のアオダイショウに出くわして、全員興味津々に観察を行った。

この後、朝食を済まして隣接の「国営滝野す

ずらん丘陵公園」に場所を転じて「自然観察ハイキング」に移った。



ここでは、指導員が自然解説員となって、フィールドビンゴも兼ねて小径沿いの植物、昆虫、花などについてやさしく解説。子供たちも、素早く見つけた珍しい生き物、光景などを指導員に次々に聞くなど参加者全員、楽しくかつ自然の不思議さを感じるハイキングとなった。とくに元水田跡を田んぼに復元したコーナーでは、カエル、トンボ等が多数いるため、子供たちは歓声を上げて網を振り回していた。

集い終了に当たって行ったアンケートでは、特に子供たちの中から感動したこととして出



されていたのが、「せせらぎウオッチング」と「セミ」、「ヘビ」との出会いだったようだ。とりわけセミについては、セミ時雨がふさわしいほど多数見られ、子供たちは生きているセミはもちろん、その抜け殻、羽化セミまで見ることができ、大変感動したようだ。

いずれにしても、参加者全員、「来年もまた是非来たい」と語るなど、好評のうちに無事終了した。

最後に若い指導員がこの集いに参加することは、観察会の開催をはじめとするその後の指導員としての活動を行う上で極めて有意義なものであるため、是非、積極的に参加されることが望まれる。  
(村元 健治)



## セミのだっぴをかんさつしたよ

小学1年 部田 一智

外でカレーづくりをしていたら、先生が「せみがだっぴをしている」とおしえてくれた。ゆうがた6じ、とつぜんしずかにすこしでてきたよ。6じ15ぶん、あたまとせなかをしたにしてがんばってからだが出てきた。6じ20ぶん、からだがたくさんでてきて、あしもすこしちやいろくなった。7じ、たいへんだっぴがもうおわってすっきりだね。7じ30ぶん、ぬけがらにつかまって、はねまできれいなみどりいろ。よる8じ、さっきとおなじかっこうで、すこしづつおとなにちかずいてきたかも。つぎのひ、はやおきしてかんさつしたけれど、もうせみはいなかった。

こえぞせみのかんさつできをつけたことは、おどろかさないようにしずかにしたこと。2じかんもおなじせみのだっぴをみて、そして、せんせいのおはなしやせつめいをきいたので、ほんでしらべるよりもたくさん、せみのことがわかったような気がする。

このほかにも、さかなをあみでつかまえたり、ヘビをみかけたり、くわがたを5匹もみつけたり、とてもたのしかった。

連載

## 嫌われ者～カメムシの世界 2 海辺にすむ個性的なカメムシたち

小樽総合博物館学芸員 山本 亜生

海岸の自然に適応した「海浜植物」と同様に、海辺に特化した昆虫がいることをご存知でしょうか？ 日本に 1500 種以上いるカメムシ類の中にも、このような特異な生態を持つ種がいくつか知られています。

北海道には自然豊かな海岸が多く、身近な場所でこのような珍しい生物を観察することができます。また海岸のカメムシは詳しい研究が進んでおらず、新しい発見に出会う可能性が高い、魅力的な研究対象でもあります。

小樽は多様な海岸の景観に恵まれた街で、私が勤める博物館では、海岸にすむ生物についての調査を続けています。今回は調査の中で出会った個性的な「海浜性カメムシ」たちについてご紹介します。

### 砂浜海岸にすむ エゾコバネナガカメムシ

潮風と激しい砂の移動にさらされる砂浜には、厳しい環境に適応した様々な海浜植物が生育しています。中でもテンキグサ（ハマニンニク）は波打ち際に最も近い過酷な場所に群落をつくる植物です。

エゾコバネナガカメムシは、テンキグサに寄生し、その汁を吸って生活している小型のカメムシで(写真 1、2)、日本では北海道だけに分布します。北海道の砂浜海岸を代表するカメムシの一つです。

部田 一智エゾコバネナガカメムシはテンキグサの葉鞘の間にすんでおり、葉を茎から剥がすと、その間に挟まるように隠れているを見つけられます。群れを作って暮らしており、多い時で数十個体が 1 本のテンキグサから見つかることもあります。

また、その体型は細長く、一見カメムシには見えない



写真 1



写真 2

自然観察 115 号(6)

姿です。翅（はね）が極端に短く腹部が大きく露出していることも非常に特徴的です。短い翅は機能せず、飛んで移動することができません。

飛ぶことができず、食草からほとんど離れないエゾコバネナガカメムシですが、時々、翅が長く飛翔可能な個体（長翅型）が出現することが知られています（写真 3）。

これは増えすぎて生息密度が高くなり、新しい環境を探す必要がある際に生まれると考えられています。このように同じ種内で翅の形や機能に違いが存在することは翅多型（したけい）と呼ばれ、昆虫ではしばしば見られる現象です。

エゾコバネナガカメムシの長翅型が現れる頻度は非常に低く、滅多にお目にかかることはできません。私も数回見つけたことがあるだけです。体長は 4 mm 前後なので、短翅型と長翅型を見分けるにはルーペが便利ですが、他の個体と明らかに違う長翅型は慣れれば目視で見分けることも可能です。

エゾコバネナガカメムシは環境の良い砂浜海岸であればかなり個体数が多く、簡単に見つけられる昆虫です。ぜひ珍しい長翅型を探してみてください。

### 岩石海岸にすむ ウミミズカメムシ

切り立った海食崖が迫り、岩礫が転がる「岩石海岸」にも、カメムシがすんでいます。ウミミズカメムシ（写真 4）はアメンボに比較的近いミズカメムシ科の一種で、海面に近い、時に海水をかぶるような場所にすんでいます。昆虫は一般的に塩水を苦手としていますので、非常に特殊な生態を持っていると言えます。

このカメムシも一見カメムシとは思えない不思議な姿をしています。翅が無く、飛べない代わりに、長い脚を使って石の上を素早く動きます。石の下や間にすむ微小な生物を捕



写真 4



写真 3

まえ、体液を吸って暮らしていると考えられています。

ウミミズカメムシは北海道から沖縄まで広く分布しますが、これまでに発見されている生息地は十数ヶ所に過ぎません。調査のしにくい特殊な環境にすみ、小型で目立たないことから、多くの生息地が未発見のままになっていると推測されます。

北海道で見つかったのはつい最近のことで、2006年に小樽市で初めて確認されました。それまで知られていた北限は岩手県宮古市で、大幅に記録を塗り替える発見でした。その後、函館市でも確認されています。

小樽市の生息地は私が勤める博物館のすぐ近くで、街から離れた場所ではなく、港の近くに残された小さな磯浜です(図5)。一般的に自然豊かな海岸にすみようですが、テトラポッドなど人工



的な環境で見ついている例もあり、意外と身近な場所にもすんでいるようです。

最近の研究では、淡水が海に流れ込むような場所を好むらしいことがわかってきていますが、その生態にはまだ謎が多く、一見良さそうな場所を探してもなかなか見つかりません。

おそらく道内には他にも生息地があるはずですが、その後、発見されたという情報は耳にしません。ぜひお近くの浜でも探してみてください。

### 塩水中にすみ サキグロコミズムシ

カメムシ類には一生のほとんどを水中で過ごす、いわゆる水生昆虫が多く、全体の種数のおよそ一割が該当すると考えられています。代表的な

ものとしてミズカマキリやタガメがよく知られています。

水生カメムシの多くは池沼や河川にすみ淡水性の種ですが、海外では塩分を含んだ水域にすみ種が比較的多く知られています。ほとんどは潮汐などの影響で淡水と塩分が混ざり合った環境にすみませんが、中にはかなり塩分濃度が高い場所に生息するものも知られています。

このような塩水性の水生カメムシは、日本ではほとんど見つかっていませんでしたが、最近、コミズムシ類というグループで、このような習性を持つと見られる種がいくつか確認されています。

サキグロコミズムシ(写真6)は、当館の調査によって、北海道で初めて確認されたコミズムシですが、海外では塩水中にも生息することが知られている種です。小樽で見つかった場所は、砂浜にできた水たまりで、塩分の影響をある程度受けられる環境でした。また、岡山県では塩田の跡地でも見つかっています。



北海道の海岸には東部を中心に多くの海跡湖があり、アッケシソウのような耐塩性の植物が繁茂する塩湿地と呼ばれる環境があります。このような場所ではサキグロコミズムシのような特殊なカメムシが、まだ人知れず生息している可能性は高いと思われます。調査対象として非常に興味をそそられる環境の一つです。

写真1 テンキグサの葉鞘にすみエゾコバネナガカメムシ。

写真2 エゾコバネナガカメムシ。普通はこのように翅が短い(短翅型)。

写真3 エゾコバネナガカメムシの長翅型。生息密度が高まると出現する。

写真4 ウミミズカメムシ。体長は約4mm。

写真5 ウミミズカメムシの生息環境。このような海岸で見つかるが、どこにでもいる訳ではなく、生息に必要な条件はよくわかっていない。

写真6 サキグロコミズムシ。腹部は研究のため外してある。

## 生物の標本箱のような有珠の自然を見つめて

伊達市 福田 茂夫

内浦湾の北東岸に面した伊達市有珠地区は、有珠山の山頂部の崩壊によって形成された独特の地形で知られている。出入りに富んだ海岸線や岩礁、砂浜、内湾の奥に広がる干潟などに棲む生物もまた多様性に富んでいる。ここを北限とする生物や周囲には見られない生物も生息している。縄文時代以降、連綿として人間もこの地の恵みを楽しんできたことを考えれば、奇跡とも思える自然が残されている。しかし、絶滅の危機とは紙一重であることもまた事実である。

昨年来、有珠湾の干潟にひっそりと生息してきた「コメツキガニ」の保護を目的に観察を続けている。いつの日にか、この小さなカニを含む自然環境が大切に保護されることを願いながら、そのための基礎資料作り

を進めている。この夏に向け、有珠海岸で自然観察会や学習会を開催していこうと計画中である。



連載(2)

## 面白く楽しい自然ガイド

ウトナイ湖 古砂丘を行く

谷口 勇五郎

7月5日、某会の植物観察会で、ウトナイ湖の南東部にある古砂丘に出かけました。JR 植苗駅前から出発し、間もなく左に折れ、線路沿いに南下、約3kmで古砂丘に到着しました。ウトナイ湖は約6千年前、海だったところが沿岸流により作られた海跡湖という。初めは海砂でしたが、その後、火山灰が積もり、砂丘が発達したといえます。ハマナス・ハマハタザオ・ウンランなど海浜性の植物も海岸でなくとも同じような環境であれば育つのですね。高山性のイワブクロ(今はない)・ウラジロタデやハナゴケ(灰色)、低地性のクロミノウグイスカグラ(ハスカップ:花が2個で実は1つ:2個の子房が合体した二花果)なども見られます。これらが混在した植生は特異な景観を示すとして、学術的にも貴重なので、苫小牧市は平成2年に自然環境保全地区に指定しました。

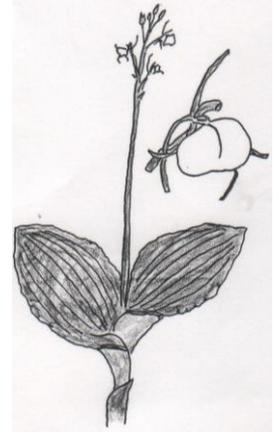
案内人は前もって、植苗 JR 沿い・砂丘林・湿原にある植物リスト(5年にもわたる調査により306種)を提示しました。春には、エゾノタチツボスミレ・サクラスミレ・スミレ・アカネスミレ・ツボスミレなど10種も見られるそうです。

オオウメガサソウ(イチヤクソウ科)がいたるところにあります。常緑の葉を10枚ほど輪生状につけ、花茎に5~6個の花を付けています。葉を2~3枚輪生状に、花は1個だけ付けたウメガサ

ソウもたまにあります。案内人は林に入り、クモキリソウ（ラン科：葉は2枚で縁は縮れ、唇弁は中ほどで曲がる倒卵形）、エゾチドリ（ラン科：へら形の葉を2枚、穂状の花は殆ど散っていました）の場所に案内しました。ラン科のものは珍しく、写真を撮り、帰り調べるのがやっとでした。誰かがチョウセンゴミシの緑の1房の果実を持って来ました。1粒かむと味は殆どありませんでした。1房が1花からできた集合果なそうです。花卉8枚以上がハナニガナ、6~7枚はニガナ、花卉の白いものはシロバナニガナなどもありました。

ウトナイ湖に続く湿地に来ました。シロネ・ミズオトギリ・アカネムグラなどがあります。1ヶ月後にはミズトンボ（ラン科）が咲いているそうです。

線路そばにハタザオ、林にヤマハタザオがありました。これらは葉の形や状態が異なります。この辺にはハタザオの仲間が3種あることとなります。道路縁にあるものは殆どへらバヒメジョオンといいます。茎はほぼ無毛、下の方の葉はへら形、上の方は細く全縁、頭花の径は1.5cm程、筒状花の径≒舌状花の長さ、とといいます。ヤナギバヒメジョオンの方は全体に伏毛あり、下葉はへら形、中より上は倒皮針形で全縁かわずかに鋸齒、葉の縁が裏面に向かい反り返る、頭花の径は2cm以下、筒状花の径>舌状花の長さなどがその差異などだそうです。しかし、いつも頭をひねってしまいます。そこから線路そばの道を苫小牧方面に歩きながら、ミヤコグサ、エゾスカシユリ（海岸の砂丘など）・ウツボグサ・イヌゴマ・ナミキソウ（海岸の砂浜）・ノハナショウブ・サワアザミ・エゾノヨロイグサ・イタチハギ・ヌカボ（高さ30cm、1小花）・コイチゴツナギ（欧州原産、茎は扁平、高さ50cm、3~6小花）などがありました。100m程進み、カラマツ林の中に入りました。そこには足の踏み場も無いほどに、コバノイチヤクソウ（葉は卵状だ円形、葉柄は長い）・ヒトツバイチヤクソウ（茎は赤褐色で葉は1枚）・ジンヨウイチヤクソウ（葉は腎円形）・コイチヤクソウ（花は片側に）・ジガバチソウ（ラン科：葉はクモキリソウに似て、唇弁の先はとがる）などがありました。〇〇イチヤクソウなどの名をつぶやきながらひたすら、写真を撮っていました。すぐ近くに、これほど植生の豊かなところがあったのでした。（図上 クモキリソウとその花）



## 指導員発行のレジメ・パンフ・冊子

募集!!

来る11月7日(土)に開催する本会創立30周年記念公開シンポジウムでは、会場に指導員の皆様方が発行した自然観察会での案内資料・レジメ・パンフをはじめ、日頃の活動の体験、自然・生物に関する随筆、報告等をまとめた冊子・パンフなどを会場に展示して、指導員、一般市民の参考に供したいと考えています。

つきましては、近年(5年以内)に出されました該当するものがありましたら、観察部の山形宛てまで、来る10月10日(土)まで、2部お送りください。

送り先 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12・14 山形 誠一



# ウオッチングレポート



## 札幌市北区 「春の北大構内」 観察会 2015/4/26

エゾヤマザクラ、チシマザクラ、ソメイヨシノがほぼ満開、開き花始めたマメザクラの構内を「お花見しましょう」と正門～中央道路～工学部～原始林～遺跡保存庭園まで散策しました。2004年に復元されたサクシュコトニ川が陽にきらめき春の陽気が一層伝わりました。工学部玄関脇に刈り込まれたイチイはキャラボクと見間違えるほどでした。ミズバショウ、フキタンポポ、外来種で一番早く咲くニオイスマレ、フッキソウ・ルブルムカエデ・ネグンドカエデ・キタコブシ・ハルニレ・ヤチダモ・チョウセンレンギョウ・エゾムラサキツツジの木本

の花、メタセコイア、原始林のトリカブト、ニリンソウ、バイケイソウ、ドクニンジン、イワミツバ、キバナノアマナ、エゾエンゴサク、アズマイチゲ、オオバナノエンレイソウなどを観ました。擦文時代の遺跡保存庭園は、小高い見通しの良い所に竪穴住戸が立てられたようですが、集落遺跡の穴 30ヶ所の窪みが分かりませんでした。

(報告者 須田 節)

## 恵庭市 「春の緑につつまれて」 観察会 2015/5/9

5月9日の恵庭公園は、サァーとひと雨走り去った後でした。より清涼な空気に包まれ、雨に打たれた木々やグリーンが鮮明になっていて、葉の上の水滴がキラキラと日の光に照らされ美しさに一層輝きを増していました。

公園は木々の芽吹きが始まり、新しいエネルギーがいっぱい詰まっています。林床、遊歩道の両側には白い可憐なニリンソウ、エンレイソウ、紫色のエゾエンゴサクが今盛りです。毎年春の恵庭公園の姿です。鳥のさえずり、小さくて見逃してしまいそうな草花たちがい

っぱいです。

恵庭公園で最も大切なユカンボシ川、美しい流れはどこまでもどこまでも澄みきっています。これらの一つ一つ、何一つ欠けることなくいつまでもこの場所にあってほしい自然の姿です。

100年先も200年先も今のままであってほしいと強く願います。

(報告者 山内優子)

## 札幌市北区 「五ノ戸の森」 観察会 2015/5/9

集合場所の開拓の広場の前にあるニセアカシヤやアカナラにたくさんのアオサギの巣があり、今は卵を温めている時期です。初めて見る人もいて感激していました。

屋敷林をもとに整備された公園なので、ケヤキ、サイカチ、ブナなどがあり、ナシ、クリ、スモモ、クルミなど果樹もあります。

今年は春のおとずれが早く、カタクリ、エゾ

エンゴサクなどは花が終わり、オオバナノエンレイソウやニリンソウなどが咲き、バイケイソウやオオアマドコロのつぼみが見られました。樹木ではエゾノウワミズザクラは散り始め、エゾサンザシ、ツルマサキなどの花がもう少しで咲きそうです。小さな実をつけ始めたネグンドカエデなどを熱心に観察していました。

総会後の講演会で、雪虫の話をしてくださっ

た山田大邦氏が参加され、トドマツとヤチダモと雪虫の関係を分かりやすく説明してくださり、皆さん興味深そうに聞き入っていました。

(報告者 横山加奈子)

小樽市 「赤岩遊歩道」 観察会 2015/5/10

春の赤岩遊歩道を歩こう

初めての赤岩遊歩道（ニセコ積丹小樽海岸国定公園）を歩きました。

天気もよく、花はムラサキヤシオツツジのピンクと、オオカメノキの白とのコントラスト良かったです。他にミツバアケビ、ウルシの多いところでした。

ロッククライミングをする人、白龍山にお参りする人がいました。

岩の上の鳥、ハヤブサかなと思いましたがカラスでした。

海の青さと積丹方面の海岸線、ローソク岩も見えました。

暑寒別連山、黄金山も見えました。

緑が美しい季節で、楽しい一日でした。

ホテル「ノイシュロス」で一旦解散、水族館前よりのバスで、小樽駅で降りてまた解散でした。

(報告者 広岡賢治)

札幌市清田区 「平岡公園」 観察会 2015/5/10

人工湿原の変わる様子を見よう

例年とはまったく違い、梅の花も散っていましたが、車の多さは、例年通り。

最良の天気でした。

来年の開催日は、5月20日前後に変更を予定します。

沢地のオオカメノキ、人工湿原のミツガシワが最高！

(報告者 佐藤佑一)

苫小牧市 「錦大沼総合公園」 観察会 2015/5/17

春の草花たち

少し風が強く、若葉の束が数種通路に落ちていて、良い話の種になりました。

また、イタドリとウラジロタデの葉の違い諸々のほか、味までみていただきました。おやつ感覚の酸っぱさに驚いていた方もおられました。

春の一日、参加者皆さんとゆったりと歩き、どなたが踏んだか、私の大好きなツルニンジンの匂いがして、ほんわりと心が和みました。事故や怪我のない楽しい観察会でした。

(報告者 渡部悦子)

旭川市「春の旭山」 観察会 2015/5/24

春の旭山を訪ねよう

観察協議会旭川で行う旭山をテーマの観察会も2年目の春。昨年と時期をずらし、今年

度は新緑や木漏れ日の美しい5月24日に開催。小学生から70代まで幅広い参加者は、

自然観察 115号(11)

思い思いに植物や鳥、木々や昆虫と多様な自然と向き合えた。

1週間で春の野草も変わり、その移り変わりも見事。下見では咲いていたオオカメノキの装飾花は散り、ルイヨウボタンの緑の花も終わりかけ、新たに可憐なクルマバソウが斜面を埋めている。

木々も葉を広げ天井を覆い、優しい光も心地良い。葉の上には赤い徳利上の虫こぶも発

見。小学生は昆虫を見つけ「エゾクロナガオサムシ」と詳しい参加者から説明をいただいた。ツツドリや托卵されるセンダイムシクイも大忙し。

春は自然の営みの素晴らしさや癒し、そして私たちに喜びや元気を与えてくれる。

(報告者 柳田 弘子)

### 千歳市 「春の紋別岳」観察会 2015/5/30

#### 春の花・野鳥

当日は出発少し前、地元の警察から、山頂近くに、小熊がいたので登らないでほしいとの要請がありました。

それで午前中は麓を、午後は休暇村方面の観察をしました。

数日前の下見では、中腹より上でムラサキヤシオ・コヨウラクツツジが咲いていました。下のほうでは、シラネアオイが咲いていたのに、当日は散っていました。オオバキスミレ・ツルネコノメソウ・チシマネコノメソウなどが咲いていました。樹木では、ダケカンバ・シラカバ・

ウダイカンバの違いや、ハウチワカエデ・ミズナラの花の観察をしました。ヒガラ・ウグイス・ツツドリ・エゾムシクイ・センダイムシクイなどのさえずりやキジバトが登山道を歩いていました。それらの鳥の習性など、支笏湖の周りの山々についても、案内しました。湖畔で湖の上空に水平な虹のようなものが見えました。山では見えなかったと思います。

(報告者 谷口勇五郎)

### 余市町 「余市の自然と史跡を歩こう」観察会

#### 余市の自然と史跡を歩こう

9時集合の余市駅前では、昭和29年植樹のイチョウ(夫婦)が仲良く健やかに明るい緑で歓迎してくれた。

「よいち」の地名の由来から始まり、大正9年に、会津藩士入植50年に建立された開拓記念碑を見学。近くの商店玄関からツバメが飛び交い子育て中で、余市ならではの風物でした。ニッカウキスキー工場前からリタロードを通り、ベニバナトチノキを見ながら工場脇の堤防を余市川の流れを見ながら散策。小鳥の声を聞き、

葉桜の並木を通り、余市図書館に立ち寄って、余市町役場前の樹齢169年のオンコを見学した。天候は曇り、堤防は草刈機で刈り取られきれいになっていた。花は街路樹のベニバナトチノキの花が咲いていて、余市の町のシンボルとなっていた。観光客で賑わっていた。

(報告者 本間正一)

### 札幌市清田区 「平岡公園」観察会 2015/6/14

#### 人工湿原の変わる様子を見よう

上空に餌運びに忙しそうなおオサギが飛んでいます。山にはワニグチソウ・タニギキョ

ウ・ホオノキ・オオバスノキ・ウメガサソウ・ギンリョウソウ・ジンヨウイチヤクソウ・トケンランが咲き、人工湿地では、サギスゲ・ヤナ

ギトラノオ・クロバナロウゲ・カキツバタが見ごろです。

一番人気は、腰の高さで咲くホオノキの花でした。カキツバタの花は、6月の観察会ではじめて見てもらいました。その代わりに、ルリミノウシコロシの花は終わっていました。

9月の観察会で、瑠璃色の実を是非見に来ていただきたく願いました。

(報告者 佐藤佑一)

### 札幌市清田区 「平岡公園」観察会 2015/7/12

#### 人工湿原の変わる様子を見よう

暑いです。出発時 29℃。今年は上流湿地でシオヤトンボを見ませんでした。

少し心配です。数は少ないがオニヤンマ、オオカワトンボ、モイワサナエなど。

人工湿地では、ヨツボシトンボ、シオカラトンボ、エゾイトトンボ、アオイトトンボなど。花はノリウツギ、イヌゴマ、オオウバユリ、ツルアジサイ、ノハナショウブ、エゾノヒツジグサ、シャクジョウソウなど。

実はミヤマザクラ、アオダモ、ヤマウルシ、サワフタギが多め。

ズミ、オオバボダイジュは少ない。

アオサギの巣立ちは例年より早く、ほとんど巣立ちました。

(報告者 佐藤佑一)

### 札幌市北区 「屯田防風林」観察会 2015/7/12

#### 街中の自然

晴天の中、「オオウバユリの生態と繁殖の二つの戦略」を中心に観察会が行われました。

こんな場所に 2500~3000 株の「オオウバユリ」が群生しているとは知らなかったと驚嘆の声が上がっていました。それはこの日が、真に満開に開花していたからです。なにせ、開花から 7~8 日程しか咲いていない花ですから、開催日の設定は予定通りと安堵しました。

その百合根（娘鱗茎）を、屯田兵、先住民族アイヌの人たち、そして私たちの先祖も食糧難

の時代に食材にしたと言う食文化の森でもあります。

牛乳パックをボードに、芽出し~種子散布、根茎から芽出す「栄養繁殖」を写真を使い説明し、楽しく賑やかな観察会でした。

最後に、雪虫の話を山田先生に、アイヌ文化の話を檜木さんに話していただき、この防風林を次の世代に残すことを確認し合いました。

(報告者 木村美太郎)

### 札幌市豊平区 「精進川」観察会 2015/7/12

#### 初夏の精進川周辺を散策してみよう

晴天の中で行われた観察会。

参加者の半分は、「精進川」のことを知らないという話だったので、川の説明をしてから出発しました。

オニグルミの実を小さいながらも、手で引き

寄せて観察。ミゾソバはまだ花を付けておらず、茎を触ってもらい、棘があることを触覚で体験。さらに進み、川の中にイカダみたいな物を発見し、直線的な流れの川には必要なことも解説し、知識として確認。前半の最後には、ヤマグワを試食し味覚を体験。後半に入り、林床中のオオ

ウバユリはまだ開花しておらず、ここでもヤマグワを試食し、前半で食べたものより酸っぱいと違いを体験。

クルミの実の食痕で小動物が生息していることを視覚で体験。

滝のところでは、ここ 2~3 年川の流れが自然災害により変化していることを「攪乱」・「遷移」

と、少し生態学的な言葉で解説し終了。

五感をフルに体験した「自然に親しみ、自然に学ぶ」観察会でした。

(報告者 鈴木ユカリ)

### 苫小牧市「夏の錦大沼」観察会 2015/7/12

#### 盛夏の森もよう

この日は夏日で大変暑く、日差しも厳しいのですが、錦大沼の周りを歩くので木陰は涼しく、森林浴を大いに楽しむことが出来ました。

この時期は草花の開花が少なく、緑をたっぷり味わい、じっくりと草花や樹木を観察し、種を判別したり、地形や土の状態などを観察しました。

そんな中で数は少ないのですが、草花のハナニガナ・キツネノボタン、オトギリソウ、ウメガサソウ、オニノヤガラなどが咲いていました。

樹木では、カエデ類、ミツバウツギ、ナツハゼ、ツリバナなどの実の成長具合を確認したり、これから花を咲かせる草花を確認しながら、楽しい一日を過ごしました。

観察会に参加すると、皆さんそれぞれに新発見があり、好奇心を掻き立てられる会であるとのことを確認し合いました。

(報告者 渡部悦子)



## 参加者の声



### 苫小牧市「錦大沼公園」(2015/5/17)

苫小牧市 白崎 均

さわやかな5月、木々や大地が青々となっている。ドロノキ、ハンノキは青々と茂り、カエデ類は葉を開きかけ、ツリバナも花をつけています。

オオバナノエンレイソウ、フッキソウ、ムラサキケマン、スマレ類、湿地や小沼の岸には、ミツガシワが、それぞれ可憐な花を咲かせ他の草花も咲かせようと準備を整えているようです。

私は観察会に参加するようになって4年目になります。木々や草花の名前を少しずつ教えて

もらい又、調べたりしてこの世界の楽しさと自然のしくみや不思議さを少しずつ解ったつもりになってきました。

木々も草花も生物です、長い年月、命を継いで力強く生き抜いた生命力には驚かされ生きる力を教えられるようです。

人間は勝手に自然を破壊したり絶滅させてはなりません。その時は人類も滅んでしまうことを意味します。

自然を後世に継いで残すことが私達の使命であり義務でもあります。

## 余市町「余市の自然と史跡を歩こう」(2015/6/7)

小樽市 山田 幸則

今回の「余市の自然と史跡を歩こう」に参加し、楽しい一日を過ごすことが出来ました。

観察会の中心になり、下見をし企画を立て、丁寧な説明にいたるまで諸準備を進めて下さった本間正一様はじめスタッフの方々に深く感謝申し上げます。日程的にもゆったりしていて、説明も過度にならないよう配慮がありました。

よい天気の中、自然と歴史の中に静かに身を置く感じでした。特に余市川兩岸の散策と観察

の中では、植物、昆虫、鳥、川の流れ等、十分に味わうことが出来ました。また、駅前、開村記念碑、町立図書館、役場前においても、本間さんより、要点を得た説明があり、楽しいものでした。今後の予定表もいただきましたので、機会があれば、また参加してみたいと思いました。いまいちど、案内をして下さった方々に、心よりお礼を申し上げる次第でございます。

ありがとうございました。

## 小樽市「蘭島海岸の海浜植物と海産動物」(2015/7/5)

札幌市 岩井 善昭

海水浴場として道内でもっとも古い蘭島海岸の海浜動植物の観察会は好天に恵まれた。

前日から海も穏やかだったため、波打ち際の動植物があまり見当たらず、僅かにワカメ・コンブ・ホンダワラ・アオサの切れっ端があっただけ。

カモメの足跡がある砂地には茹でて三杯酢で食べられるオカヒジキがあり、その隣に外来種のオニハマダイコンが大きな葉を広げていた。これは条件が悪い土地でも育つそうで、歓迎できない植物だ。他にコウボウムギ・コウボウシバ・ハマニガナも。

初めて知る植物だった。

忍路側にある観音峠に向かう途中、思いがけずイチゴ狩りに興じた。峠の古びた祠に金魚草があった。道すがらマタタビやクワの木があった。峠を降りた頃、忍路神社のお祭りの行列がちょうど忍路湾に向かうところだった。

お神輿が湾内を巡る木船に移され、6人がかりのオールと船頭が操る一丁櫓でエイサエイサと勇ましく出発。伴走船に観察会のメンバーも乗せていただき、船中でお神酒まで振る舞われ、一同赤い顔をして帰途についた次第。



## ウォッチングプラン

開催予定日	テーマ	観察地	集合場所・時刻・注意事項	交通機関	連絡先
9/26(土)	「野幌森林公園(大沢口)」観察会 秋の野幌の森を歩く(親子参加歓迎)	江別市 野幌森林公園 大沢口	野幌森林公園大沢口駐車場 10:00 集合～12:30 解散	JR バス新札幌駅発 循環バス83番, JR 森林公園駅→徒歩8分 国道12号線開拓の村入口バス停→循環バス, 「文教台南町下車」徒歩10分	横山武彦 011-387-4960

10/4(日)	「中野植物園」観察会 秋の中野植物園観察と 源山登山。草や木の実、 菌類の観察。	小樽市源町 「中野植物園」	「中野植物園」入口 10:00 集合～12:00 解散 入園料 200 円別途 にかかります。	小樽駅前発「梅源線・長橋先 回り」で約 11 分 「中野植物園入口」下車 駐車場もあります	広岡賢治 0134-25-2722
10/4(日)	「秋の錦大沼」観察会 秋の草花やキノコ	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐 車場8:50集合9:0 0～12:00 解散 雨天原則決行・強 風日中止	自家用車のみ	渡部悦子 0144-67-8848
10/10(土)	「街中の自然・屯田防風 林」秋の観察会 ③秋編 秋の紅葉と木の実 冬の使者“雪虫”を観察 しよう	札幌市北区 屯田防風保健保安 林	屯田西公園グランド 駐車場 10:00 集合～12:00 解散(指導員は 9: 30 まで) 雨具、あれば双眼 鏡、図鑑など	地下鉄麻布駅発中央バス「03 麻生」又は「03 屯田 6 条 12 丁 目行き」、「屯田西公園」停留 所下車徒歩 2 分	澤田八郎 011-762-7798
10/18(日)	「秋の円山公園」観察会 木の実と紅葉	札幌市中央区 円 山公園	地下鉄東西線円山 公園駅 1階バス待 合所 10:00 集合～12:00 解散	地下鉄東西線 円山公園駅下 車	山形誠一 011-551-5481
10/18(日)	「モエレ沼公園」観察会 渡り前集結の鳥たち	札幌市東区 モエレ沼公園	モエレ沼公園 東口駐車場 9:40 集合～12:00 解 散 防寒の用意、 あれば双眼鏡	地下鉄東豊線 環状通東駅 9:10 発市営バス「札苗 69 番」 モエレ沼公園入口下車	須田 節 011-752-7217

## 【連絡先】

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は 郵便振替口座 02710-1-8768

会 計 三澤 英一 北広島市松葉町 5 丁目 9-16

会費振込加入者名 北海道自然観察協議会 三澤 英一

観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台 3-13-5

TEL/Fax 0134-51-5216 E-mail [streamy@estate.ocn.ne.jp](mailto:streamy@estate.ocn.ne.jp)

観察会報告書・資料は 観 察 部 山形 誠一 札幌市中央区双子山 1 丁目 12-14

TEL/Fax 011-551-5481 E-mail [seichi.y@jcom.home.ne.jp](mailto:seichi.y@jcom.home.ne.jp)

退会、住所変更の連絡は 事務局 池田 政明 札幌市北区麻生町 4 丁目 9-16

TEL/Fax 011-708-6313 E-mail [ecology@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:ecology@cocoa.ocn.ne.jp)

事故発生等緊急時はアスカ・リスクマネジメント 担当 本間氏 TEL 011-873-2655

投稿や原稿は 編 集 部 村元 健治 札幌市手稲区星置 2-8-7-30

TEL 011-694-5907 E-mail [cin55400@rio.odn.ne.jp](mailto:cin55400@rio.odn.ne.jp)

表紙写真 森 繁寿



自然観察 2015 年 9 月 15 日 / 第 115 号 年 4 回発行  
(会員の『自然観察』購読料と郵送料は会費に含まれています。)

発行 北海道自然観察協議会  
編集 北海道自然観察協議会編集部